

令和2年度入学試験問題（前期日程）

## 筆記試験

教育学部 学校教育教員養成課程  
中学校教育コース 教科教育専攻  
美術教育専修

### 注意事項

1. 受験番号を，解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は，必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答時間は，120分である。
4. 試験開始の合図があるまで，問題を見てはいけない。

## 問 題

身近にある「フェンス」や「柵」を利用して、子どもと行う独創的なアート活動を提案しなさい。

## 注 意 事 項

1. 「フェンス」や「柵」は自由に設定してよいが、その特徴やどのような環境にあるものかを必ず記述すること。
2. 小・中学生の対象学年・年齢は自由に設定してよい。異学年・異年齢による活動でもよい。
3. 個の活動でも共同での活動でも良い。
4. アート活動の案は複数回答してもよい。
5. 絵や図を描いて説明を補ってもよい。
6. 解答用紙は罫線の有るものと無いものがあり、自由に使用してよい。  
字数や解答用紙の枚数に制限はないが、No. 欄に通し番号を記入すること。

## 令和2年度入学試験問題（前期日程）

# 筆記試験

教育学部 学校教育教員養成課程

中学校教育コース 教科教育専攻

美術教育専修

### 出題の意図

教育学部のアドミッションポリシーでは、教育という営みの本質を学びつつ、主として学校教育に関わる今日的な問題に真剣に取り組もうとする、「教員として主体性を持ち、子ども及び社会と関わっていききたい人」「教育の理論と実践を広く深く学ぶ意欲のある人」「高等学校での基礎学力を身につけ、思考力、判断力、表現力を持つ人」「沖縄の歴史的・地理的・文化的・社会的特性を活かしながら、グローバルな視点に立って教育に関わりたい人」を求めており、その中でも、特に美術教育での適性を見るために、筆記試験においては「鑑賞力や知識、造形教育への関心度及び発想力」を見ることにしている。

身近に存在する「フェンス」や「柵」は、場所・空間の境界を隔てたり、安全やセキュリティーのために様々な環境に設けられている。本問は、普段は注意深く観察することのない「フェンス」や「柵」の構造、設置されている環境等も活かし、創造的なアート活動を構想する問題である。

「フェンス」や「柵」は隙間・切れ目など開口部があり、フェンス越し・柵越しに向かい側の景色を見ることができる。同じ場所でありながら仕切られた境界の対向側から見る景色は、視覚的にも文脈的にも大きく異なることもある。また、ネット状やスリット状の構造を利用して造形的な工夫を加えることで見え方に変化を与えることもできる。

「フェンス」や「柵」に内包される「境界へのまなざし」「見え方の変容」を想像力豊かに捉え、柔軟な発想でアートプログラムを構想することができるか、また、その「場・環境」に対して慣れきった受身的な「見方・感じ方（鑑賞）」ではなく、表現活動と連動するような創造的な「見方・感じ方（鑑賞）」を探ろうとする力を見る。そこでの思考を通して「鑑賞力や知識、造形教育への関心度及び発想力」を見る。